2021 年度
第 32 号

体育市民連帯
ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的変化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

1 スポーツを読めば
考えが健康になる

2 縄跳び国家代表女子中学生
コーチが１年以上性暴行
断ると暴言

3 根の深い
成績至上主義が抱える
スポーツ暴力

4 教育部・文体部が
「学生選手人権保護」の
人権委勧告受け入れ

5 楽しくなければ
スポーツではない、
スポーツ人権

6 障害が浮き彫りになった
東京パラリンピック報道
古い「克服描写」
相変わらず

ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号　TEL 02-2279-8999

体育市民連帯 ニュースレター 2021 年 第 32 号　　2021.9.6

01　スポーツ・オン・ブックス　イム・ハノル　2021.08.30
スポーツを読めば考えが健康になる

スポーツは大衆が愛するものである
ある本の序文にこのような言葉がある。「スポーツは大衆が愛するものである」＊
現代民主主義の国で力（主権）は「大衆」（国民）にあり、
「愛」というのは命をもあけ渡す驚くべき力の源泉ではないか。
最高権力が持つ力の源泉がまさにスポーツだ。
巨大な影響力を持つスポーツは私たちの社会、ほぼすべての場所に広がっている。
政治、経済、宗教、文化を問わず、どこでもスポーツに向き合うことになる。
領域が多様化しただけにスポーツを楽しむ形も多様になった。
この中で私はスポーツを読むのを好む。スポーツは健康のために、または、遊戯のためにするのだが、
スポーツを読むのも同じだ。スポーツを読めば心が楽しく考えが健康になる。

＊〈朝鮮の男は足元を蹴れ〉（チョン・ジョンファン著、青い歴史、2010）序文中の文　文：イム・ハノル

面白い本を読めば読書が面白い

教育学者ホワイトヘッドは、学習を 3 つの段階に分けた。「ロマンの段階」－「精密化の段階」－「一般化の段階」、当然体育教育でもこの理論は、よく使われる。あるスポーツ種目に初めて接するとき、ロマンを持つか否かに応じて、その持続するかどうかが決定される。スノーボードを極度に嫌う人は通常、むやみに友達に従って初めて乗った日に尻餅を 200 回もついた人だ。スノーボードを学ぶということは、雪山の絶景の真ん中で冷たい風を切って逆説的に暖かさを感じることを学ぶことなのだ（主観的体験）。　何はともあれ、読書も同じだ。本には興味がないと思われるなら、もしかしたら面白くない本だけ読んだのではないかと考えてみよう。あなたが謙遜しすぎた可能性があります。あなたのせいではなく、本のせいだ。

スポーツエッセイは文で味が出る

サッカーが好きなら、またさらに、女性であれば、あなたを「読むスポーツ」のロマンに引き込んでくれるちょうどいい本がある。まさに〈優雅で豪快な女子サッカー〉（金ホンビ著、民音社、2018）である。私もボールを少しは蹴ったことはあるが、サッカーという世界的スポーツの体験をこのように深い洞察で叙述した本は初めてだった。私の評価が非常に良い理由は、本を読む間ずっと息もつかせぬほど面白かったからである。

この本は、著者金ホンビが男の専有物だったサッカーというスポーツに入って経験した外的経験と内的体験の話だ。いくら早期サッカー経験が数十年であっても国家代表出身の女性にどうしても指摘をしてしまう男性のいわゆる説明欲求のようなものがもたらしたエピソードとして興味深い体験と、「購入する衣服や

靴が変わり、体の姿勢が変わり、心の姿勢が変わり、体に対する心の姿勢が変わってきて、サッカーの経験が積まれるほど、心と体の感覚が目覚めることを感じ、サッカーがとても面白くてしょうがない（本文より）」鮮やかな体験がぎっしり満ちている。

スポーツ小説はどっしりと質問する

私も時々優しいことをする。しかし、私の優しいことは善の追求ではない。カッコ良さの追求である。私はある行動が素晴らしいと思うとすぐに受け入れる。私がゴミをゴミ箱に捨てるのも、機会があれば寄付をしたり、困難な人を助けたりする行動さえもカッコイイと思ってしてきたのである。
だから私は見かけの人間であって善良な人ではない。このような面で私の人生の倫理学はカントの定言命令よりもスピノザのコナトゥスがよりよく説明している。善を追求するという理性の判断というより、かっこよくしたい欲望の衝動だから。人間は欲望が具体化された存在だというけれど。私が少しでも文学を読むようになったことも結局、文学の“粋”を知ってしまったからだ。私の好きなシン・ヒョンチョル文学評論家はとにかく素敵な文学をより素敵に説明する。

“私はよく没落した者に魅了されたりした。人生の節目において一瞬で全てを失ってしまう人は残酷なまでに美しかった。なぜなのか。彼らはただ、全てを失ってしまうだけではなかった。ある一つを守るためにその一つを除いてすべてを放棄したものだった。彼らはがらんとした何もない状態となり、没落後の彼らの表情は崇高だった。私を揺るがす作品は絶頂の瞬間にまさにそのような表情を浮かべていた。”

－ 〈没落のエティカ〉（シン・ヒョンチョル著、文学トンネ、2008 年）序文より

“残酷なまでに美しい人々”、“ある一つを守るためにその一つを除いてすべてを放棄した人々”、＜ベアタウン〉（フレドリック・バックマン著、ダサン書房、2018）と＜私たちとあなた〉（フレドリック・バックマン著、ダサン書房、2019)、二つの本がまさにそのような人たちの話だ。
北欧の田舎町を背景にアイスホッケーを題材に書いたこの小説はシン・ヒョンチョル評論家を魅了したその文学の質感を持っている。
厚い本を一冊読んで見たい場合は〈ベアタウン〉を読めば良い。その後、〈私たちとあなた〉まで二冊を読むことになる。そして没落を選択した者たちの残酷なまでに美しく崇高な表情があなたに質問する。どのスポーツが真実で正しく美しいスポーツなのか。
（訳注、ベアタウン：スウェーデンの作家フレドリック・バックマンによる小説。 ホッケー文学として知られるこの小説は小さな町で衰退する若者のホッケー チームを中心に描いている。）

スポーツ小説は暖かく質問する

暑い夏でも人々の心は涼しい。嫌悪の時代という言葉があちこちで聞こえるほどお互いに刃を向けているかの今日このごろだ。さらにクール（偉そうなフリ）なのが普遍の粋となった。このような時ほど私たちは自分の心を暖めなければならない。それともゾンビになるかもしれない。ところがスポーツを読むと心が温かくなる。〈泳ぐ女性たち〉（リピペイジ著、グピク、2018）がまさにそのような本である。読む私たちの心も暖めてくれ、冷静な勝負の世界とだけ思っていたスポーツが暖かく穏やかになることができるということも教えてくれる小説である。

この小説は水泳の礼賛に満ちているが、他のスポーツ文学や映画では必ずある、それも必ず絶頂の瞬間を作る試合シーンのようなものはない。代わりに水泳というスポーツが一人の個人の生活の中でどのような意味と存在になるのかを見せてくれる。スポーツは通常、訓練を伴う征服の対象とされる。しかし、ケイトとローズマリー（この小説の二人の主人公）にとって水泳は征服の対象ではない。彼らに水泳は慰め、励まし、抱擁を与える暖かいお母さんの懐（ふところ）のような存在だ。
ここで私達は、「水泳が上手なこと」について再度考えるようになる。より素敵な姿勢でより速く泳ぐ水泳と、型崩れ姿勢で慰めを受ける水泳のどちらがより水準の高い水泳か？　誰がより水泳というスポーツの真価を享受しているのだろうか？

だから、私たちはスポーツを読まなければならない

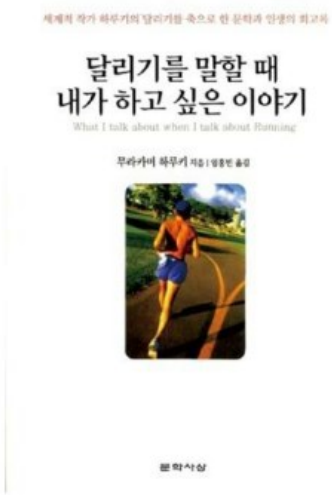
「スポーツは大衆が愛するものである。」その後ろにはこのように書かれている。　「だから、支配階級の道具となる。」
目的の手段化はいつも大きな喪失感を与える。人が道具になる時、愛が手段となる時、痛みはいかに残酷か。スポーツも同じだ。支配階級の統制手段になる時、国家主義の宣伝道具になる時、資本主義の金儲けになる時、私たちは悲惨な痛みに直面しなければならないかもしれない。実際には、数え切れないほど向き合ってきた。誰が崔スクヒョン選手を死に追いやったのか。誰が運動部を（性）暴力の場にしたのか。誰がオリンピック選手を麻薬中毒者にしたのか。誰がプロ選手を相場師にしたのか。
スポーツをすると体が健康になり、スポーツを読めば考えが健康になる。考えが健康になればスポーツを利用して食べようとする不純な意図を見分けることができるかもしれない。時々あらゆる煩悩をおろして考えずにスポーツを楽しみたいなら、スポーツについて考えるべきである。だから、私たちは、スポーツを読まなければならない。
――――――――――――――――――――――――――――――――――――

　文を書いたあるイム・ハノルは「スポーツを教えることは、より良い人を育てることと変わらない」というジョン・ウッデンの哲学と、スポーツが消えるようにしなければならないというマルクファレルマンの信念の間でスポーツ教育について勉強している。スポーツ評論家になるのが夢だ。現在は、米国ウェストバージニア大学でかばんのひもの最後の結び目を解いている。
[出処]スポーツを読めば考えが健康になる　作成者：ソウル特別市体育会

1.<유럽 명문 클럽의 뼈 때리는 축구 철학>

2.<조선의 사나이거든 풋볼을 차라>

3.<마인드 스포츠>



4.<달리기를 말할 때 내가 하고 싶은 이야기>

5.<잘 넘어지는 연습>

6.<어퍼컷 좀 날려도 되겠습니까>

出典：https://blog.naver.com/seoulsportal/222488744026

02　アジア経済　2021.09.03
縄跳び国家代表女子中学生 ″コーチが１年以上性暴行...断ると暴言″

縄跳び国家代表である中学３年生の女子生徒が大学生コーチから１年以上性暴行されていたという届出が受理され、警察が捜査に乗り出した。コーチは容疑を否認していることが分かった。

３日、京畿議政府警察署によると縄跳び国家代表選手Ａ（16）さんは、先月 28 日コーチＢ（26）氏に１年以上性暴行を受けたという内容の訴状を受理した。

昨年１月、ある大学で訓練することになったＡさんは「Ｂ氏が自分の連立住宅で他の学生と一緒に生活しようと言って合宿を勧めた」と主張し、Ａさんの親には「他の選手たちも一緒にいるので心配はない」と安心させたと述べた。

しかし、Ａさんは合宿が始まって数ヶ月後、性的暴行を受けたと主張した。

Ａさんは自筆の陳述書で ″運動の合間に（コーチが）「しよう」と（言って）私が分かったと答えないと運動が終わるまでしつこく、しようと性的関係を要求した」とし「要求を聞いてあげないと聞くに堪えない悪口や暴言をはいた。時と場所を選ばず、私にしようと要求した」と述べた。

続いて「私は自分の夢である縄跳び国家代表になるためにコーチの暴言と性暴行に耐えなければならないし、嫌だというそぶりを出すことができなかった」とし「イライラや怒りを出して怖く、大変で辛かったが言うことを聞かないでいられなかった。この人を必ずしっかり処罰してほしい」と訴えた。

実際にＢコーチはＡさんに″クレイジーX″、″毛唐 XX″、″太った女″など卑下発言と悪口を言い、Ａさんが自分の要求を拒絶するや、「よくしてくれるからカモと見てる」とＡさんを圧迫したと伝えられた。

一方、Ｂコーチは訓練生の中で大会に出場する選手を推薦してきたことが分かった。縄跳びは他の種目のようにエリート選手を育てる実業チーム（選手が職場に所属して勤務しながら、同時に運動をするスポー

ツ団体）がないので、主に生活体育大会などで実力を認められた人が代表として選抜され、国際大会に出場する。
青少年の人権団体「タクチン明日」の李ヒョンスク常任代表は、「同意した関係と見るのは難しい」とし、成人のコーチと未成年選手間の威力が作用した可能性があると述べた。
ただしコーチは性的暴行疑惑を強く否定している。
警察は、デジタル・フォレンジック作業を通じてAさんの携帯電話から関連する証拠を確保して近いうちにコーチを召喚する予定だ。また、追加被害者がいる可能性があると見て捜査を拡大する計画だ。
出典：https://view.asiae.co.kr/article/2021090318345802971

03　毎日新聞　2021.09.05
［逆に読むスポーツ】根の深い成績至上主義が抱えるスポーツ暴力

小学校に通う時、体格がいいか、足が速かったら体育英才育成種目に指定された運動部加入に一度は勧誘を受けたものである。エリート体育と呼ばれる運動部加入は自分の意志ではなく、親、体育教師・コーチの勧めでほとんど行われる。
このように始まった運動部生活は訓練と大会出場のために「合宿」という団体生活につながる軍隊のような先輩と後輩位階秩序がある規律文化を強調する。運動部は既存の運営システム的に暴力性を抱えていると見るしかない。
国内スポーツ界で当たり前の「成績至上主義」は運動部の暴力性を煽った。指導者と高学年選任選手たちの利害関係は成績を出さなければならないということで、よく合致した。教師や指導者は昇進など、より良い待遇のために選手を責め、成績を上げるに没頭し、高学力の選手たちは進学のために後輩を極限状況に追い込んで行く。個人的な目的達成が明らかであるが、チームのためにという名分が常に前面に立つ。
慶尚北道スポーツ界でとりわけスポーツ暴力と関連した事件・事故が多く起きているが、何か理由があるだろう。慶尚北道体育会が故崔スクヒョントライアスロン選手暴力で問題になったのに続き、慶尚北道醴泉中学校アーチェリー部で行われた学校暴力事態が手に負えないほどに拡大している。
今回の事態は先月4日、醴泉のアーチェリー部の先輩が撃った矢で後輩の学生が負傷したという事実が大統領府の国民請願を通じて知られ始めた。加害生徒に被害を受けたと主張する学生が相次ぎ、当該運動部コーチの常習暴行などについての証言まで出てきて、警察の捜査が拡大している。
慶尚北道教育庁などによると、弓を撃った加害生徒から学校暴力を受けた当該学生は全7人と把握されている。弓で傷を負った学生をはじめ、アーチェリー部の他の生徒4人、1年前アーチェリーをやめた学生、初等部当時暴行を受けた後、転校した生徒などである。
醴泉教育支援庁は先月27日、加害生徒について先導措置処分を下したが、彼に暴行を受けたと訴える被害生徒が追加で出てきたことで学校暴力審議会を再度開く予定だ。被害を訴えた学生の主張が事実として明らかになれば加害生徒の先導措置処分はさらに重くなる可能性がある。
教育当局の調査では、当該アーチェリー部コーチから暴言などを受けたという陳述も出た。教育当局は追加被害に対する真相調査とそのコーチを児童虐待の疑いで警察に捜査を依頼した。

醴泉中は「2020 東京オリンピック」アーチェリー2 冠王の金ジェドク選手の母校であり、今回の事態はより関心を集めている。当該学校など醴泉地域社会では、金ジェドク選手の金メダル獲得で盛り上がったオリンピック祭典の雰囲気とアーチェリー部解体の懸念などを理由に、今回の事態を拡散しようとした。
醴泉のアーチェリー部事態は親の反発で知られたものだが、実際に運動部で生じた暴力行為は過去だけでなく、現在も進行形である。ニュースにならず、合意の名目で埋もれた事件は珍しくない。スポーツスターを夢見て運動部に入ったが、暴力を勝ち抜くことができず途中で挫折した学生も多い。
成績を出さなければという強迫感による指導者と先輩学生の暴言を含む暴力行為は日常茶飯事である。団体生活に伴う秩序を保つためには、ある程度の暴力行為が伴うのは仕方がないという理由で運動部の関係者はこれを黙認する。
慶北体育会と慶尚北道教育庁が全国体育大会と全国少年体育大会の成績を出すために実施している指導者褒章が運動部の暴力行為を助長しているのではないかということも考えてみるべきだろう。指導者褒章は慶北が相対的に劣悪な条件を克服して、様々な国体で良い成績を上げる主な要因として挙げられる。慶北の指導者が受ける褒賞金は他の市道に比べて手厚いことが知られている。一部の指導者は体育大会で選手が獲得したメダルに応じて支給する褒賞金として 1 千万ウォン以上を一度に受けとることができる。
年俸など待遇が劣悪な指導者は報奨金を意識しないわけにはいかない。それだけに訓練と選手管理に気を使うようになる。一部の誤った事例であるが崔スクヒョン選手を死に追いやった指導者と先輩選手の暴力行為を見てみると褒章制が影響を及ぼしている。
金ジェドク選手のようなオリンピックスターが素晴らしい能力を備えた指導者のおかげで誕生した点を考慮すると、指導者褒章制は望ましい。この制度がジレンマに陥らないよう、二度とスポーツ暴力事態が出ないことを願う。学校運動部が減ってスポーツクラブを通じて運動選手を育成するシステムが増えるだけに、スポーツ暴力事態も減少するものと期待する。
出典：https://news.imaeil.com/InnerColumn/2021083013143987518

04　聯合ニュース　2021.08.31
教育部・文体部が「学生選手人権保護」の人権委勧告受け入れ

国家人権委員会は教育部と文化体育観光部、大韓体育会、各市道教育庁など 20 の機関が小中高学生選手の人権保護のための勧告を受け入れたと 31 日明らかにした。
人権委は「各機関が関連法令と規制の制定・改定および計画などを通じて、学生選手の人権保護・促進のための政策勧告を履行する予定であることを通知してきた」と返信内容を公開した。
人権委は昨年 6 月、教育部などに学生選手関連▲人権保護のセーフティネットの拡大▲人権侵害の予防▲暴力・性暴力の被害への対処強化など、16 項目を勧告した。 2019 年に実施した小中高学生選手人権状況実態調査結果が勧告のもとになった。

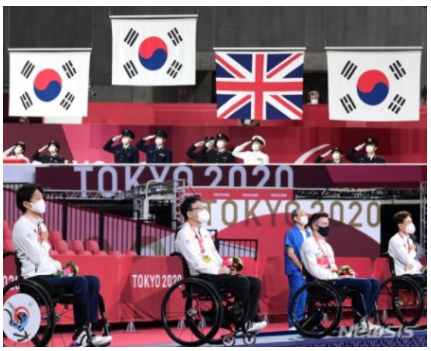
教育部は学校体育振興法を改正し、学校長や学校運動部指導者の学生選手人権保護義務を明確にすることにした。施行令も改正して運動部指導者任用時の訓練の質と学生選手人権保護に関する事項を反映し、合宿による人権侵害を防ぐために、現場点検を継続するという計画を明らかにした。
文体部は体育指導者欠格事由に選手対象の暴力・性暴力犯罪などを追加する一方、「体育指導者資格運営委員会」を設置することにした。
大韓体育会と 17 の市道教育庁も学生選手大会安全管理ガイドラインを作成し、学校運動部の指導者採用・再契約時の評価指標を改善するなどの実施方案を用意した。
一方、人権委は柔道選手の人権増進のための政策勧告も文体部とスポーツ倫理センターの柔道会などの主要な被勧告機関が受け入れたと付け加えた。
人権委は今年 3 月、柔道選手の人権増進のために▲スポーツ界人権侵害防止の予防教育の実効性の向上▲柔道種目に特化したスポーツ人権教育運営▲種目特性を反映したトレーニング指針を設け、各機関に勧告した。
出典：https://www.yna.co.kr/view/AKR20210831048100004?input=1195m

05　京畿新聞　2021.09.02
楽しくなければスポーツではない、スポーツ人権

2002 年ワールドカップ 4 強、2020 東京オリンピック 16 位など、国際大会での競争力を見せてスポーツ強国としての地位を築いた大韓民国。しかし、まだ、スポーツの場での暴力事件などの人権侵害が発生している。
その間、世界の舞台での国威宣揚や勝利を介して結果だけが浮き彫りにされている現実で多数の人権侵害が隠蔽されて歪曲されてきたのだ。
社会全般にわたって認識の改善が行われたが、成果のために手段と方法を選ばない文化は、まだ定着している。
シム・ソクヒ選手と故崔スクヒョン選手から、今年初めに浮上した選手たちの学校暴力事件までスポーツ界の暴行と性暴行事件は着実に課題として浮上している。
今、このような暴力の時代から抜け出さなければならない時期であり、スポーツ人権について考えなければならない時だ。
人権とは、大韓民国の憲法と法律で保障しており、大韓民国が加入・批准した国際人権条約と国際慣習法で認められている人間としての尊厳と価値、自由と権利を意味する。
次に、スポーツ人権とは何なのか。
スポーツ人権は、スポーツ活動で誰でも享受すべき人権として、誰でも差別なく人間としての尊厳と価値、自由と権利を享受し、スポーツ活動を行う権利を意味する。
去る 6 月 25 日、文化体育観光部は教育部と大韓体育会、スポーツ倫理センターなどの体育関連機関及び団体の関係者と共にスポーツ人権保護の推進状況を点検する会議を開催した。
また、2020 年 8 月 5 日、2021 年 2 月 19 日と 6 月 9 日、それぞれ国民体育振興法改正法律案が施行され、法的根拠まで用意された。

それだけでなく、昨年８月にはスポーツ人権侵害と不正調査処理を担当する独立専門機関であるスポーツ倫理センターを設置するなどの努力を傾けている。
しかし、先行しなければならない点は、成績至上主義文化を改善するものである。
釜慶大学校マリンスポーツ学科の金テヒ教授は「1980 年代に入りスポーツが国威宣揚の手段として利用され、法と政策の方向がエリート選手を中心に流れていった。それで過程よりも結果が優先される文化が蔓延した」とし「国際大会のメダルと良い成績を収めれば、過程は全く考慮しない構造上、いろいろな人権侵害事例が問題になった」と話した。
続いて「スポーツ界はこれまで人権侵害について隠したし、指導者や選手、親が認識していなかった点が最大の問題であった」とし「人権は最も基本的なものである。そのような人権を保護していない点は当然問題提起できるし、今後は人権に配慮していく環境になければならない」と強調した。
これに国家人権委員会は、去る 2019 年スポーツ人権憲章を発表し、指導者の評価システムの変更や予防教育などを通じて、成績至上主義の文化の打破、人権保護に努めている。
金教授は、「スポーツ人権侵害への対策が事後の後追い式で懲戒と処罰が主だった。もちろん、教育や法制度改善などが行われているが、原因を見つけて解決しなければならない」とし「申告者が保護される環境が作られなければならず、根本的な理由について対策も検討する必要がある」と主張した。
現代社会においてスポーツは人間の生活と密接な関係にあり、大きな影響を与えている。自分たちだけのスポーツスターを見て夢を育て、彼らはまた誰かの夢になる。
被害者が保護されず、一人で精神的・身体的傷を堪えて、深刻な場合は運動を放棄する状況まで追いやられる現実と暴力文化の中で、再び加害者となる悪循環を断ち切らねばならない。
暴力と性暴力、学生選手の学習権の侵害など、様々なスポーツ内の人権侵害を防ぐためには選手本人と家庭、学校など社会全般の努力が必要である。このようになれば、する者が楽しめるスポーツにできるのではないだろうか。
スポーツ選手の成果は自ら耐える忍耐の結果であって、不当な苦痛の結果であってはならない。　「楽しくなければスポーツではない」という言葉のように。
出典：https://www.kgnews.co.kr/news/article.html?no=665161

06 PD ジャーナル　2021.09.02
選手の代わりに障害が浮き彫りになった東京パラリンピック報道
...古い「克服描写」相変わらず



「白子症（アルビノ）も視覚障害も乗り越えた」、「本当に苦しい瀬戸際を勝ち抜いた選手たち」2020 東京パラリンピック出場選手たちの活躍を伝える報道と中継で古い障がい克服コメントがまだ表示されている。
来る５日に閉幕する東京パラリンピックに出場した代表選手は 86 人（14 種目）。東京オリンピック期間に通常のプログラムの放送を休止して、一日中競技中継を編成していた放送局と選手たちの顔で１面を飾った新聞において、パラリンピック選手の競技ニュースはわざわざ探さなければならないほど少ない。

メディアがパラリンピックに相対的に少ない割合を割いているのも残念だが、それさえも障害者選手たちに対する差別的な視線が目立つ。障害者スポーツ競技の報道は健常者競技とは異なり成果より障害を浮き彫りにするが、パラリンピック報道でもこのような態度を見せた。

〈朝鮮日報〉はパラリンピック開幕前日の8月23日から8月31日まで報道したパラリンピック関連記事16件のうち6件は障害を強調したタイトルだった。〈腕がなければ口で...これがパラリンピック〉、〈足を使わなくても...私たちの車輪は止まらない」、「足でボールを浮かしてサーブ...両腕なくラケットくわえてスマッシュ〉、〈世界で唯一手足のないフェンシング選手、パラリンピック2連覇〉などのタイトルは、選手の名前よりも障害に目が留まった。東京オリンピックを介して多くの選手が名を知らしめたのとは違って閉幕三日前までパラリンピック選手一人の名前も思い浮かべにくいのは、このような報道の影響が大きい。

〈朝鮮日報〉は東京パラリンピックトライアスロン金メダルを取ったスペインのロドリゲス選手に焦点を当てた〈アルビノも視覚障害も越えた鉄の女性〉で「スペインの女医・ロドリゲス、アルビノを抱えて生まれメラニン色素欠乏で体の大部分が白い。この遺伝性疾患の影響で両眼の視力は5〜7%程度だけ残っている」とロドリゲスを紹介した。

障害を克服した選手と家族のコメントはパラリンピック報道で難なく見ることができる。

〈ハンギョレ〉は卓球シングルスで銀メダルを首にかけたソ・スヨン選手の試合のニュースを伝えた〈ソ・スヨンの挑戦... 2大会連続「貴重な」銀メダル〉記事を〝人生の悲劇は不意にやってくる。ソ・スヨンがそうだった〟という文章で始めた。

〈京郷新聞〉は8月31日〈聴覚障害を越えて「プロの夢」...彼のそばにはいつも父がいた〉で野球選手金ドンヨンの父について「どんな苦難もいとわない父親の献身的な世話」を強調し、「訓練するために出退勤を一緒にし、日本に行った時も同行した。息子が聞くことが難しいときに父はコミュニケーションを支援することもした」と伝えた。

試合中継でも選手たちの障害に言及する解説は常に登場した。

ジョン・ミンジェ選手が出場した東京パラリンピック陸上女子200m決勝中継では、「はい、そんな（脳病変）障害を乗り越え、本当に4回目のパラリンピックで素敵な姿を見せてくれることを期待します」とした。

車椅子バスケットボール男子予選グループA組では、SBSキャスターが「パラリンピックに参加する選手を私が初めて英雄との言葉を使いましたが、すでに非常に難しい瞬間を勝ち抜いた選手たちですからね」と言うと、イム・チャンギュ解説委員（ソウル市障害者体育会事務局長）が〝視聴者の方々が知っておくべきことが、障害を見るのではなく選手たちの競技力を見ることによって、このパラリンピックの意味がより価値あるものになる」と呼びかけている姿も電波に乗った。

MBCのYouTubeチャンネル〈エムビッグニュース〉はパラリンピック卓球競技の映像に〈片側手足が麻痺しても...両方の腕がなくても...パラリンピック感動の卓球名勝負!!!」というタイトルをつけた。朴ホンギュ選手入場画面では「車椅子に乗って入場した朴

ホンギュ選手、16年前の事故で右の手足が麻痺した」という字幕を、相手のエジプト選手紹介画面には「両腕がない」という字幕を強調して付けた。
競技場面では、「さらにバックスピンも可能だ！」、「感覚を失った腕でスマッシュを打ち」、「世界の偏見を超える渾身のラリー」など、障害者を劣った存在として眺めた視角の説明が次々続いた。
すべて障害者スポーツ中継・報道で避けるべき態度だ。
障害者政策モニタリングセンターが2018年平昌冬季敗オリンピック当時10大日刊紙をモニタリングした〈モニタリングレポート〉には、スポーツ報道で避けるべき5つの方法が一目瞭然に整理されている。
△障害者を「人間の勝利のドラマ」あるいは「感動の源泉」として描写　△「小児麻痺を乗り越えて」のように「障害克服」を強調している場合　△身体損傷を詳細に強調し---たり、障害と疾病を同一視した場合　△障害を無気力、不幸、絶望、数値などで描写　△障害者の家族（特に配偶者と母親）を罪人や英雄に描写する場合などである。今回の東京パラリンピック報道を見ると、2018年の平昌パラリンピック報道で指摘された問題が繰り返されたわけだ。
金ソンゴン韓国障害者人権フォーラム事務局長は「障害を認めて障害者が健常者と社会で一緒に生きていくことが、障害者政策の最高目標」だとし「マスコミが障害者選手を他の存在として報道したり、非障害者の視点から障害克服と表現したりすると、そうできなかった人は克服する意志がない、または遅れをとった存在になってしまう。障害が克服の対象ではなく、認められなければならない対象であるという認識が必要だ」と述べた。
出典：http://www.pdjournal.com/news/articleView.html?idxno=72875

07　週間スポーツ関連ニュース

［ファクトチェック］5年間で205の運動部解体...「体育名門」もう昔話
http://www.kyeonggi.com/news/articleView.html?idxno=2379043

シン・チョン選手村長「選手に訓練をさせないことは人権侵害でしょ」
https://www.donga.com/news/article/all/20210831/109016837/1

賄賂・薬物に染まったIOC刷新した「ミスタークリーン」
http://news.kmib.co.kr/article/view.asp?arcid=0924207105&code=12160000&cp=nv

ジョン・ジンワン会長「国家代表訓練システムの前面修正、スポーツ科学支援切実〞
https://sports.chosun.com/news/ntype.htm?id=202109060100040300002442&servicedate=20210905

教室の中の運動場　バーチャルリアリティスポーツ人気
https://www.ytn.co.kr/_ln/0115_202109050151424587

ウォーキングから自転車へ　今年のホットな生活スポーツは「自転車」の理由は
http://sports.khan.co.kr/bizlife/sk_index.html?art_id=202109031052003&sec_id=564001&pt=nv

仁川市、「仁川 FC サッカー専用球場」にスポーツマーケティング融合...新しい空間に再創出
https://www.ajunews.com/view/20210905102316915

[With コロナ]①コロナ 19 で変化したスポーツ、限界を克服しなければ
https://www.kgnews.co.kr/news/article.html?no=665543

大衆に一歩近づいた乗馬スポーツ
http://www.sportsseoul.com/news/read/1061164?ref=naver

体育市民連帯オンライン　定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。
国民銀行　086601-04-095940
口座名義：体育市民連帯
オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。
多くの関心をお願いします。

INFOMATION
体育市民連帯　ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号
Tel：02-2279-8999、E-mail：sports-cm@hanmail.net　ホームページ：　http://www.sportscm.org/
日本語訳：佐藤好行　新日本スポーツ連盟　国際活動局　韓国担当　jr1fep@gmail.com
週刊ニュースレターバックナンバー（資料室）　http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html